

Title	福沢書翰の新資料(明治二十四年三月二十三日付,松山棟庵宛)
Sub Title	
Author	会田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1967
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.40, No.1 (1967. 7) ,p.140- 140
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19670700-0140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福沢書翰の新資料 (明治二十四年三月二十三日)
付、松山棟庵宛

決定版の『福沢諭吉全集』には、第十七、十八巻および第二十一巻に収められた補遺をあわせて、実に二千七通に及ぶ福沢書翰が載っている。しかし、この全集刊行後も、なお未収の新資料書翰が少なからず目にふれる。次に紹介するものも、その一つである。

原本は市川市在住の榎本寿子氏のご所蔵にかかり、塾監局渉外部長中村精氏の紹介によつて、商学部の特任講師小川繁司氏を通じ、去る(昭和四十一年)一月二十九日に見せていただいたのであつた。

内容は、福沢の三女しゆんが嚢腫のため本郷の大学病院に入院していたときのこと、手術の結果、容体が快方にむかい、いよいよ退院の許しがあつたので、かねて相談にのつてもらつていた松山棟庵にそれを報告

するとともに、とりあえず礼を述べたものである。
ちなみに、榎本氏は松山家の縁戚の方ときく。

拝啓仕候陳ハおしゆん事御蔭を以て近々全癒ニ及
ひ一昨日より少々乍室内歩行も出来今日院長之言
ニ退院も妨なしとの事ニ付天氣次第明日引取候積
ニ御座候拝顔萬々可申上候得共不取敢御礼旁御届
申上候取込中匆々頓首

三月廿三夜

松山様

諭吉

(会田 倉吉)